



福島の実状。すすまない除染

市議会議員 萩原陽子

4月下旬に福島県南相馬市を訪問しましたが、海岸近くの田畑に打ち上げられた小型船や自動車、壊れた家などのガレキが積み残されたままの状況が2年前のまま放置されています。津波にあった後の復興が進んでいる岩手、宮城と違って福島では放射能を除染しなければ復興できないのです。東京電力は全く除染に関与せず、国の費用でそれぞれの自治体が除染を進めていますが、終了したのは住宅の除染計画の15.9%、学校・公園の74%、道路の20%、田畑は46%、果樹園は92%で、県土の7割を占める森林は全く手つかずの状態です。国直轄で行うことになっている年間積算線量が20ミリシーベルトを超える所は全く除染が進んでいません。南相馬市では竹中工務店に除染を丸投げし、危険手当のピンハネが問題になっています。

苦しいのは家族の分離・地域の分断

南相馬市は原発からの距離が10キロ圏から30キロ圏まで広がる地域で、子どもたちは外で自由に遊べず、運動不足で肥満傾向が顕著です。2012年の出生数は事故前の56%に減りました。若い世帯の多くが避難して家族がバラバラになり、いつ戻れる状態になるのか見通しが立たないことが悩みです。医師

不足、看護師不足、介護施設も介護士も足りないのに要介護者が増え続けています。

原発問題は収束していない

原発事故によって仕事と生活を破壊し、地域と家族をバラバラにした責任を取らないまま政府が2012年12月に収束宣言を出してから、東電の賠償に対する態度はさらに悪化したと言います。精神的な苦しみはお金に換算できないほど深く重く心に突き刺さっています。安倍首相が原発のトップセールスに得意顔のニュースを見て、経済界の利益だけを優先する政策が事故を無視して進められていることに怒りと恥ずかしさを感じます。もっと福島の実状を多くの人に知らせたい！マスコミの無視を許さないためにも皆さんぜひ福島に足を運んでください。農家民宿は一泊二食で6500円です

が、ボランティアなら4500円で泊られます。(介護施設でのボランティアは高齢者のお話を聞くこと、一緒に歌を歌うことなど、何でも歓迎とのこと)



市は今年度も引き続き学校や保育園の給食用食材をはじめ、水道水や農産物の放射能測定と児童施設・公園などの放射線量の測定を実施し、市のホームページに結果を公表しています。2011年3月の原発事故直後と比べて数値は低くなっていますが、一度放出された放射性物質は消えることはありません。雨で流され、

放射能物質はどこへ 佐倉の現状

市内でも側溝などの雨水が溜まりやすい所ではまだ放射線量の高い状況があります。ごみの焼却灰や下水汚泥等に高い濃度の放射能が含まれたものは指定廃棄物として県内に2600トン保管されていますが最終処分場選定の見通しが立たないままです。(佐倉市では現在まで指定廃棄物の発生はないと発表)



渡辺チー子さんの自宅「ほほ笑みの宿」です。